

平成30年「落花生」生育情報 (最終報)

平成30年11月9日
千葉県農林水産部
生産振興課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育を情報提供するものです。
調査地点で収穫状況をまとめたものであり、県内全域の収量を保証するものではありません。

1 平成30年産落花生の作柄

各調査ほ場の収穫調査の結果は、表1のとおりです。

本年は、7月の高温・干ばつの影響を一部の品種で受けたものの、概ね順調に生育しました。また、収穫の早いものは、地干し期間中にあたる9月の長雨により、収穫の遅れや一部でカビの発生による外観品質の低下がみられました。

「千葉半立」、「おおまさり」のさや実数・乾燥さや実重は平年と比べて多い傾向となり、「ナカテユタカ」は平年並みとなりました。

今年デビューした「Qなっつ（品種名：千葉 P114 号）」のさや実数・乾燥さや実重は過去2年間の平均をやや上回りました。来年に向けて栽培方法を再確認しておきましょう（詳細は別紙参照）。



2 来年の栽培に向けて、優良種子を準備しよう

今年度に収穫された「千葉半立」、「ナカテユタカ」では、平年よりも幼芽褐変の発生が多くなりました。下記の写真のような幼芽褐変が見られる場合は、出芽率に影響することがありますので、次年度の落花生栽培に向けて、種子に幼芽褐変がないか確認しましょう。幼芽褐変が見られる場合は、種子を多めに確保してください。

また、異型莢を除去して優良種子の確保に努めましょう。

幼芽褐変症の発生率（％）

	千葉半立	ナカテユタカ	おおまさり	千葉 P114 号
H30	14.0	9.0	4.1	4.0
平年値	3.8	6.8	2.1	3.5

*発生率は、軽度～重度の合計から算出。平年値はH23年から29年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く5か年の平均。ただし、「千葉 P114 号」はH28, 29年の平均値。

幼芽褐変の程度別症状



健全種子



幼芽褐変 軽度
本葉が褐変
出芽率9割



幼芽褐変 中程度
胚軸上部が褐変
出芽率6割



幼芽褐変 重度
本葉全部と胚軸上部が褐変
出芽率1割

3 定期的に種子の更新をしよう

品種の特性を維持するには、種子更新が必要です。3～4年に1回程度の定期的、計画的な更新に努めましょう。

表 1 落花生収穫時調査結果（調査用のサンプルは、収穫後、乾燥機で通風乾燥させた）

品種名	年次	は種日	開花期	収穫日	さや実数 (個/m ²)	乾燥さや実重 (g/m ²)	全粒重 (g/m ²)	上中実		むき実歩合 (%)	上中実百粒重 (g)	上中実歩合 (%)
								粒数 (個/m ²)	粒重 (g/m ²)			
千葉半立	本年	6/1	7/10	10/6	364 (135%)	423 (119%)	284	334	264	67.3	78.6	93.3
	前年	6/3	7/10	10/4	269	353	250	325	236	70.6	72.2	93.9
	平年	5/29	7/9	10/4	269	354	249	285	229	69.6	79.3	91.8
ナカテユタカ	本年	5/20	6/29	9/24	331 (104%)	509 (103%)	361	389	348	70.8	89.3	96.3
	前年	5/24	6/29	9/19	295	443	317	350	304	71.4	85.8	95.0
	平年	5/22	7/4	9/21	320	496	355	373	338	70.9	88.9	94.7
おおまさり	本年	5/30	7/2	9/16	260 (114%)	356 (90%)	157	157	145	44.0	91.4	91.9
	前年	5/25	7/1	9/28	208	372	232	191	224	61.1	115.1	96.2
	平年	5/28	7/2	9/27	229	394	254	208	248	63.2	116.9	97.2
千葉P114号	本年	5/29	7/9	9/26	322 (118%)	466 (118%)	320	375	306	67.9	81.6	95.0
	前年	5/29	7/1	9/24	255	406	289	316	279	71.3	87.4	96.2
	平年 (2年平均)	6/5	7/9	9/27	274	396	268	331	253	66.6	75.1	92.9

* 本年値、及び前年値は、各品種の調査結果の平均値。

* さや実数及び乾燥さや実重の本年値の（）内は平年値との対比。

* 平年値はH23年から29年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く5か年の平均。ただし、千葉P114号は、H28、29年の平均値。

表2 (参考) 落花生研究室(八街市)の落花生収穫時調査結果作況(本年の値)

(調査用のサンプルは、収穫後、乾燥機で通風乾燥させた)

	年次	は種日	開花期	収穫日	さや実数 (個/m ²)	乾燥 さや実重 (g/m ²)	全粒重 (g/m ²)	上中実		むき実 歩合 (%)	上中実 百粒重 (g)	上中実 歩合 (%)
								粒数 (個/m ²)	粒重 (g/m ²)			
標播	千葉半立	5/18	6/30	10/1	433 (177%)	519 (153%)	334	389	309	64	79	93
	ナカテユタカ	5/18	6/28	9/15	345 (119%)	487 (111%)	338	377	318	69	84	94
	おおまさり	5/18	6/27	9/27	252 (143%)	436 (162%)	265	206	260	61	126	98
	千葉P114号	5/18	6/28	9/15	346 (121%)	493 (122%)	335	378	320	68	85	96
晩播	千葉半立	6/8	7/11	10/15	343 (208%)	424 (219%)	303	373	288	71	77	95
	ナカテユタカ	6/8	7/11	10/1	324 (116%)	518 (132%)	383	438	372	74	85	97
	おおまさり	6/8	7/11	10/11	263 (172%)	407 (182%)	255	190	248	63	130	97
	千葉P114号	6/8	7/12	10/1	308 (114%)	449 (117%)	318	364	309	71	85	97

* さや実数及び乾燥さや実重の()内は平年値との対比。

* 平年値はH28、29年の平均値。

落花生「千葉P114号（Qなっつ）」の栽培方法

*品種登録済（登録年月日：平成30年10月10日）



品種特性

（「ナカテユタカ」と比べて）

- ◆ 幼芽褐変症が少なく、出芽率が高い
- ◆ 草型は立性、分枝は少ないが長い
- ◆ 収量性は同等で多い
- ◆ 莢は白く、外観が良い
- ◆ ショ糖含量が高く、甘み強い
- ◆ 莢および子実はやや小さい

千葉P114号の生育・収量の目安

最長分枝長	分枝数	10a当たり収量	1株当たり全莢数	上実百粒重
55～65cm	15～20本	400～500kg	40～50個	90g



未熟 適熟 過熟

● は種 ▲ 開花期 ★ かん水 □ 収穫

※記載の日付は過去3年の結果からの推定

栽培のポイント

(1) 肥料は慣行の基準に従う

- 施肥量は「ナカテユタカ」などと同程度とする
- 窒素：リン酸：加里 = 3：12～15：12～15kg/10a
- 苦土石灰：60kg/10a

(2) 株間30cmの2条植えで、1粒まき

- 9230（幅95cm、2条、条間45cm、株間30cm）のマルチが最も適する。株間を狭めると株が徒長し、収穫時の作業性が悪くなるおそれがある
- は種粒数は1粒まきを基本とする
2本立ちは株が徒長しやすくなる

(3) は種適期は5月中旬から6月中旬

- 早まきよりも遅まきの方が、ショ糖が高くなり、分枝が短くなり徒長を抑えることができる
- カラス対策としてキヒゲンR2フロアブルを使用する

(4) かん水は開花期後20日頃に行う

- かん水は開花期後20日に行うと増収する
- 1回目のかん水後も乾燥が続く場合は1週間後を目安に再度行う
- 開花期後40日のかん水は幼芽褐変症の発生を抑制するが、ショ糖含量低下の原因となる
そのため採種栽培の場合は開花期後40日前後のかん水を推奨するが、一般栽培の場合は、ショ糖含量を低下させないために40日以降のかん水は控える

(5) 収穫適期は開花期後80日頃

- 開花期後85日を過ぎると過熟による不良子実が増え、年次によっては落ち実の発生も多くなることがあるので、掘り遅れには十分注意する
- 年によって成熟の速度が異なるので、収穫適期の1週間前に試し掘りを行い、莢殻の裏を見て熟度を確認する